

令和2年度第1回八戸市南郷新規作物研究会議 議事録

日 時 令和3年3月23日(火) 10:30~11:10
場 所 八戸市庁本館3階第一委員会室
出席委員 狛守弥千代委員、曾我安博委員、丹羽浩正委員、根岸文隆委員、山崎邦男委員
八戸市 小林市長、上村農林水産部長、松橋農林水産部次長兼農政課長、久保所長、
中山生産振興GL、佐々木技師、戸田

●司会

御案内申し上げました時間でございます。本日は、大変お忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は、本日の会議の進行を務めさせていただきます、八戸市農業経営振興センターの佐々木と申します。よろしくお願いいたします。

令和2年度第1回八戸市南郷新規作物研究会議の議事に先立ちまして、市長から委嘱状の交付を行いますので、委嘱される皆様は、その場でお待ちください。

最初に、狛守弥千代様、その場で御起立願います。

●市長

委嘱状、狛守弥千代様、八戸市南郷新規作物研究会議委員を委嘱いたします。期間、令和3年3月23日から、令和5年3月22日までとします。令和3年3月23日、八戸市長 小林眞、よろしくお願いいたします。

●司会

次に曾我安博様。

●市長

委嘱状、曾我安博様、以下同文でございます。よろしくお願いいたします。

●司会

次に丹羽浩正様。

●市長

委嘱状、丹羽浩正様、以下同文でございます。よろしくお願いいたします。

●司会

次に根岸文隆様。

●市長

委嘱状、根岸文隆様、以下同文でございます。よろしくお願いいたします。

●司会

次に山崎邦男様。

●市長

委嘱状、山崎邦男様、以下同文でございます。よろしくお願いいたします。

●司会

松田浩二様につきましては、所用のため、欠席でございます。

それでは、市長から御挨拶を申し上げます。

●市長

それでは、一言御挨拶を申し上げます。

まずもって、本日は、大変お忙しい中、御出席を賜り、誠にありがとうございます。

このたびは、「八戸市南郷新規作物研究会議」の委員をお願いしたところ、御快諾を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、委員の皆様には、日頃から、当市の農業施策の推進に御理解と御協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、南郷地区において、国内需要の減少により、地域の農業経営を支えておりました葉たばこの生産が減少し、地域経済に影響を与えていることから、新たな作物について研究し、南郷地区の農業の活性化を図るため、平成 26 年度にこの八戸市南郷新規作物研究会議を創設いたしました。

皆様のおかげを持ちまして、これまでに、新規作物としてワイン用ぶどうと薬用作物を選定していただき、ワイン用ぶどうにつきましては、平成 29 年に初めての収穫が行われ、これまでに、市内 2 カ所のワイナリーで約 12,000 本の八戸ワインが製造されております。薬用作物につきましては、株式会社ツムラと栽培に関する調査等を進めているところであります。

当研究会議は創設から 7 年目を迎え、更なる新規作物の研究等を進めるとともに、ワイン産業等の振興に向けた今後の取組について、引き続き皆様の御意見等をいただきながら、進めて参りたいと考えております。

本日は、委員委嘱後、最初の会議でありますので、会長、副会長の御選任をお願い申し上げますとともに、南郷地区の新規作物の研究につきまして、忌憚のない御意見をお聞かせいただきたいと思います。

結びに、委員の皆様には、多年にわたり培われました豊富な知識と経験を生かされ、当市の農業の振興はもとより、広く市勢の発展につきましても、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。どうぞよろしく願いいたします。

●司会

ありがとうございました。

ただいまから、令和 2 年度第 1 回八戸市南郷新規作物研究会議を開催いたします。

最初の研究会議の議長の職務は、八戸市南郷新規作物研究会議規則第 5 条第 1 項の規定により市長が行うことになっております。

本日は、小林市長が、会長が選任されるまでの間、議長をつとめます。小林市長よろしく願いいたします。

●市長

それでは、会長及び副会長の選任を行います。

会長及び副会長の選任は、規則第 4 条第 2 項の規定により、委員の互選により定めることとなっております。

最初に、互選の方法はいかがいたしましょうか。

●委員

指名推薦でお願いします。

●市長

ただいま指名推薦との御発言がありましたが、他に御意見はございませんか。

●委員

なし

●市長

それでは、選任の方法は指名推薦にしたいと思います。

これに御異議はございませんか。

●委員

なし

●市長

御異議なしと認め、選任の方法は指名推薦といたします。どなたか御推薦をお願いいたします。

●委員

丹羽委員を会長に、根岸委員を副会長に推薦いたします。

●市長

ただいま、丹羽委員を会長に、根岸委員を副会長にという御発言がございましたが、他に御意見はございますか。

●委員

なし

●市長

御意見がないようですので、これより会長及び副会長の選任について、委員の皆様にお諮りいたします。丹羽委員を会長に、根岸委員を副会長に選任することに御異議はございませんか。

●委員

なし

●市長

御異議がないようですので、丹羽委員を会長に、根岸委員を副会長に選任いたします。

それでは、最初に、会長の丹羽委員から就任の御挨拶をお願いいたします。

●会長

前回に引き続き、会長の役割を務めさせていただくことになりました。八戸ワインは年を追うごとに知名度も上がり、市内でも自由に楽しめるようになりましたが、さらに発展させていくような動きにお手伝いできればと思います。よろしくをお願いいたします。

●市長

ありがとうございます。

続きまして、副会長の根岸委員から就任の御挨拶をお願いいたします。

●副会長

副会長を拝命いたしました根岸と申します。どうぞよろしく願いいたします。

●司会

ありがとうございました。

小林市長は公務のため、ここで退席させていただきます。

丹羽会長、根岸副会長におかれましては、会長席及び副会長席に御移動願います。

それでは、会長、よろしく願いいたします。

●会長

それでは、最初に、「会議の公開」と「会議録の確定方法」を皆様にお諮りしたいと思います。まず、「会議の公開」につきまして、事務局から説明願います。

●事務局

農業経営振興センターの戸田と申します。よろしく願いいたします。

それでは、「会議の公開」につきまして、御説明いたします。お手元の資料の一番後ろ、「附属機関の会議の公開等に関する取扱い」を御覧ください。

附属機関の会議につきましては、「附属機関の会議の公開等に関する取扱い」の第2「会議の公開基準」におきまして、原則として公開することとなっております。

公開・非公開の決定は、第3「会議の公開又は非公開の決定」で附属機関の長が会議に諮って行うものとなっております。

また、第6「会議録の作成及び公開」につきまして、公開・非公開に関わらず、速やかに会議録を作成し、会議において公開しないこととした情報を除き、公開することとなっております。

当会議でご審議いただきます案件につきましては、会議の公開によって審議会の運営に著しく支障が生じることはないと思われまますので、事務局といたしましては、①会議は原則として公開とする、②会議における発言は会議録として記録される、③会議録は公開する、④その他詳細につきましては、附属機関の会議の公開等に関する取り扱いのとおりとするということで、会議を運営させていただきたいと考えております。なお、傍聴者は会議で発言することはできません。

公開する会議録につきまして、誰の発言か特定できないように氏名は表記せず、発言者につきましては、会長、副会長、委員、事務局と表記させていただきたいと存じます。

また、公開する委員名簿につきましては、個人情報保護の観点から、委員の氏名のみを記載とし、その他の所属や役職等の情報につきましては記載しない取扱いとさせていただきたいと存じます。以上でございます。

●会長

ありがとうございました。

ただいま事務局から当会議の公開につきまして、説明がございましたが、なにか御意見、御質問等がございましたら、お願いいたします。

●委員

なし

●会長

特に御意見がないようですので、「会議の公開」につきまして、事務局の案を採用させていただきたいと存じます。

次に、「会議録の確定方法」につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

●事務局

御説明いたします。会議録の確定方法につきまして、特に取り決めがございません。確定方法といたしましては、①会議における議決、②委員全員による個別の承認、③あらかじめ指名された委員による承認などが考えられます。

事務局といたしましては、会議録を速やかに作成し、確定後、公開する必要があることから、③番の形を採用し、事務局が作成した会議録について、会長から承認を受けた後に、公開するという方法でお願いしたいと考えております。また、会長が御欠席の時は、副会長にお願いしたいと考えております。以上でございます。

●会長

ありがとうございました。

ただいま事務局から会議録をすみやかに確定して公開したいという理由から、私または根岸副会長が確認するという案が出ましたが、御意見、御質問等がございましたら、お願いいたします。

●委員

なし

●会長

特に御意見がないようですので、「会議録の確定方法」につきまして、事務局の案を採用させていただきたいと思います。

それでは、次第に従いまして、議事を進行してまいります。

議事次第の5番、八戸ワイン産業創出プロジェクトにつきまして、事務局から説明をお願いいたします。

●事務局

はい、八戸ワイン産業創出プロジェクトにつきまして、引き続き、私の方から資料に基づき御説明させていただきます。失礼ながら着座の上、御説明させていただきます。

それでは、資料の1ページを御覧願います。まず事業の目的でございますが、国内需要の縮減により、地域の農業経営を支えていた南郷地区の葉たばこの生産面積が減少し、地域経済に影響を与えていることから、気候と土壌への適応性の高いぶどうの生産と国内市場が拡大傾向にあり、産業として裾野の広いワイン産業の創出により、当市の主産業である農業の付加価値の向上に資するとともに、地域経済の活性化及び雇用の増大を図るためとしてございます。

続きまして、令和2年度の事業実績、(1)ぶどう栽培に関する調査研究でございます。①定植品種の収量等についてですが、令和2年産ワイン用ぶどう生産状況の表を載せております。令和2年は、ピノ・ノワールからリースリングまで計11品種のぶどうが収穫され、市内2つのワイナリーへ出荷されてございます。収量の多いものから、キャンベル・アーリー

3,195kg、ナイアガラ 1,944kg、マスカット・ベリーA 1,480kg、ポートランド 1,320kg、メルロー 1,032kg と続いており、トータルでは 10,750kg の収穫量となっております。単収につきましては、多い順に、キャンベル・アーリー、ポートランド、ナイアガラ、マスカット・ベリーA の順になっており、平均で 10a あたり 788kg となっております。糖度につきましては、果実糖度と果汁糖度の平均値でございますが、ヤマ・ソービニオン、マスカット・ベリーA、メルロー、シャルドネが 18 を超えるものとなっております。表の右端には、品種ごとの収穫期を記載しておりますが、全体的に、例年より 1 週間程度、遅い収穫期となりました。長いものですと 2 週間程度遅くなっているものもございます。昨年は非常に雨が多かったのですが、日照不足の影響で糖度が上がりず生育が遅れたものと考えられます。

続きまして、2 ページを御覧願います。平成 29 年の初収穫から、今年度で 4 回目となりますが、これまでの収穫量の推移を掲載しております。一部病気などで収量が減った品種もございますが、ほとんどの品種で収量は増えております。キャンベル・アーリーやナイアガラなどの生食用品種が大きく増えておりますが、ワイン専用品種につきましても、メルロー、シャルドネ、ケルナーなどが年々増えております。単収につきましては、平均しますと 10a あたり 788kg となっております、昨年度と比べますと若干増えてございます。

続きまして 3 ページを御覧願います。糖度につきましては、昨年産と比べて低下しているものが多く、平均 16 となっております。先ほども申し上げましたとおり、昨年の長雨や日照不足が大きな原因と考えております。ぶどうの糖度が上がるのを待つことで、収穫時期が遅れ、実が熟しすぎてしまい、その間に品質が悪くなってしまうこともありますので、収穫適期の見定めというところが検討課題であると感じております。

続きまして、令和 2 年産ぶどうの価格表を参考までに掲載してございまして、糖度別、欧州系品種か米国系品種かなどで価格が変動する形を取っております。価格表につきましては、ぶどう生産者の皆様とワイナリーの皆様と市で話し合いを行い決定してございまして、令和 3 年産につきましても今後検討することとしてございます。

続きまして、②生産安定技術、病害虫防除技術等に関する講習会の実施でございまして、毎年、ぶどうの生育ステージに応じて、年 4 回程度開催しているものでございますが、今年度は新型コロナウイルスの影響などから定期的に開催できず、1 回の開催となっております。収穫期前の作業と収穫期の留意点についてと題しまして、岩手県紫波町の株式会社紫波フルーツパークの半田透さんに着色管理、成熟期の着果調整、収穫までの防除などについて御講義いただきました。

続きまして、4 ページを御覧願います。ワインの需要の拡大を図るための取組につきまして御説明いたします。①八戸ワインフェス内におけるワインに関するセミナーですが、八戸ワインフェスは飲食店のオーナーやソムリエなどにより組織される八戸ワインフェス実行委員会が市内のワイン需要拡大のために開催しているイベントでございまして、市はセミナーの開催に関する支援を行っておりますが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からワインフェスの開催を中止といたしました。続きまして、②八戸ワイン産業振興セミナーですが、市内のワイン需要の拡大や人材育成を図るため、マスターソムリエの高野豊さんを講師として開催しているものでございまして、1 回目は 7 月に開催しており、「地ワイン

成功の為の三つの診断書～流通における見える手と見えざる手・経済力と人格力。ねたまれる振興勢力と尊敬される老舗力～」と題しまして、店頭試飲販売などでお客様との意見交換を最低でも半年に1回は行うことの大切さ、また、今後ワイン事業でいろいろなことを仕掛けていく際には出来るだけ多くの人に声をかけることがポイントであるというお話をいただきました。

続きまして5ページを御覧願います。第2回目は11月に開催し、「だから売れたワイン、どうして売れないワイン～造って45点、売れて45点+アルファ10点で本当のワイン～」、「日本ワイン輸出、あなたはアジア派 ヨーロッパ派」と題しまして、八戸で合うと思われるぶどう品種の解説や、中国のイオンにおいて、イタリアのワインよりも日本のナイアガラの方が多く売れたということで、アジアに目を向けることも悪くないとのアドバイスをいただきました。

続きまして6ページを御覧願います。第3回目は3月に開催しており、「フナッシーに勝ったミキャン～愛媛ポンカン缶チューハイの仕掛け～」、「品質か価格か、買われ飲まれなければ未完成ワイン」と題しまして、高野さんが愛媛ポンカンを使った缶チューハイを開発した経緯や工夫した点について、また、商品の価格設定の大切さなどについてお話をいただきました。

続きまして7ページを御覧願います。③八戸ワインカレッジですが、八戸ワインの魅力を発信するとともに、八戸の食との組み合わせを研究し、ブランド化を推進するため、市内のソムリエ等を講師として開催しているものでございまして、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、初めてオンラインで開催いたしました。参加者のご自宅へ事前に「八戸ワイン」、また、「飲食店にご協力いただき作っていただいたワインに合うお料理」を発送しまして、参加者はワインと料理を楽しみながら、オンラインで講師の講義を聴くという形式で開催してございます。講師は、日本ソムリエ協会認定ソムリエで澤内醸造オーナー醸造家の澤内昭宏さん、日本ソムリエ協会認定シニアソムリエで素材礼讃 丹念 店長の久慈竜太郎さん、日本ソムリエ協会認定ソムリエールで田向の kitchen プルトワの林千佳さんの3名をお願いいたしました。澤内さんには、「ワイン醸造について」と題しまして、ワインを生産するための機材の説明や、ワイン造りに関する工夫されている点などを御解説いただきました。

8ページを御覧願います。久慈さんには、「ワインと和食とのペアリングについて」と題しまして、和食と合わせる際には、味噌や醤油やみりんなどをソースやスパイスの代わりに見立ててワイン選びをするということや、旬の食材に合わせてワイン選びをするということなどを御解説いただきました。

9ページを御覧願います。林さんには、「ワインと洋食のペアリングについて」と題しまして、ワインの温度差による味わいの変化に着目したペアリング方法などを御解説いただきました。

初めてオンライン形式でイベントを開催いたしましたが、八戸市民のほか、東京、埼玉、群馬など遠方からも御参加いただきました。

続きまして、10ページを御覧願います。市内ワイナリーの現状につきまして御説明いたし

ます。平成 28 年 12 月に澤内醸造と八戸ワイナリーを八戸ワイン生産事業者に認定しております。現在 2 社でワイン生産を行っております。

はじめに、株式会社サンワーズ、澤内醸造でございますが、平成 29 年からワイン醸造を開始し、今年度は 7 月に澤内醸造初となる赤の八戸ワイン「Ga Rosso 2019」をリリースしております。使用しているぶどう品種は南郷産マスカット・ベリーA で製造本数は 1,300 本でございます。1 月には 3 種の八戸ワインをリリースされております。南郷産キャンベル・アーリー、マスカット・ベリーA を使った「ff フォルティッシモ」、こちらは製造本数 450 本。南郷産ナイアガラとポートランドを使用した「Wa 2020 白スパークリング」と「Ga 2020 白ワイン」につきましては、製造本数はそれぞれ 1,000 本でございます。

続きまして、11 ページを御覧願います。八戸ワイナリー株式会社でございますが、当初は株式会社紫波フルーツパークへの委託醸造でワインを販売しておりましたが、令和元年から南郷地区の自社工場でワイン醸造を開始しております。今年度は 4 月に南郷産キャンベル・アーリー、ピノ・ノワール、メルローを使用した赤ワイン「彩 IRODORI 2019」をリリースしており、製造本数は 1,390 本でございます。また、10 月には南郷産マスカット・ベリーA を使用した赤ワイン「マスカット・ベリーA2019」をリリースしており、製造本数は 1,600 本でございます。

続きまして、資料の 12 ページを御覧願います。年度ごとの八戸ワインの製造本数を表にしております。2 社ともに年々製造量は増えておりまして、現時点で 12,455 本となっております。なお、資料には、八戸ワインのみの記載とさせていただいておりますが、南部町や山形県など他の産地のぶどうを使用したワインや県南のりんごを使用したシードルなども 2 社ともに発売しております。

続きまして、令和 3 年度の取組を御説明させていただきます。(1) ぶどう栽培に関する調査研究、(2) ワイン需要の拡大を図るための取組、(3) ワイン用ぶどうの苗木の購入に対する補助金、(4) ワイン用ぶどうの雨よけに必要なビニール等の購入に対する補助金につきましては、来年度も継続して実施することとしております。なお、八戸ワインフェスにつきましては、新型コロナウイルス対策としまして、飲食を伴わない形でセミナーのみをオンラインで 5 月 30 日に開催することとしております。また、八戸ワイン産業振興セミナーにつきましては第 1 回目を 4 月 13 日に八戸パークホテルで行う予定としております。(5) ワイナリーの整備に対する補助金につきましては、ワイナリーの新設ではなく、既存のワイナリーの備品購入に要する経費に対して支援する予定となっております。

資料には掲載しておりませんが、昨年は丹羽会長の御協力のもと、10 月に八戸学院大学の学生の皆様によるぶどうの収穫体験を行ってございます。このワインプロジェクトを多くの方々に知ってもらうために、来年度も引き続き取組を進めてまいりたいと考えております。

以上で八戸ワイン産業創出プロジェクトについての説明を終わります。

●会長

ありがとうございました。ただいま、事務局から説明のありました、八戸ワイン産業創出プロジェクトにつきまして、御意見、御質問等ございましたら、お願いいたします。

●副会長

資料の3ページですが、平均糖度の推移という資料を作成していただいておりますが、説明の中でもあったように、昨年の天候不順によりぶどうの糖度が上がらないということが、実際このように数字で表れておりますし、栽培している生産者の方々からも「なぜこんなに上がらないのだろう」という声が聞こえていました。その中で、天候不順だけなのか、管理の段階で、糖度を上げる生産技術を生産者も勉強し直さなければならないひとつ大きな課題ではないかと認識しています。昨年の講習会の中で話があったのですが、1本の樹から20枚の葉を出し、そこに副梢が伸びてきて、プラス20で40枚必要になる。40枚の葉が出ることにより、そこから太陽光を浴びて、光合成が行われる。枝につく葉の数とともに、途中からぶどうの実にエネルギーを戻す時期があるのだそうですが、適切なタイミングを見て、ぶどうのエネルギーをどういう風にして効率よく歩留まりを良くするかというのが生産技術だと思います。私たち生産者も改めて昨年勉強し直したわけなのですが、令和3年につきましては、近くにいるぶどう栽培を実践してきた方々から生の声を聞きながら、栽培技術の取得の方法をうまい具合に講習会に組み入れていただきたい。良いぶどうでなければ良いワインは造れないそうですので、まずは良いぶどうをつくるための指導をいただいて、それに応えるような、生産者とワイナリーの方々と一緒にやって行く取組が必要ではないかと感じました。もう一步進んだ形で技術的なものを生産者も理解して、良いぶどう造りを進めていければ、これから良い方向に進んでいくと思いますので、研修会を取り入れていただくなどよろしく願いできればと思います。

●会長

ありがとうございました。

●事務局

天候だけではなく品質については技術力も必要ということでおっしゃるとおりでございます。今年度は1回しか生産講習会を開催できなかったのですが、令和3年度はタイムリーにステージごとに開催できるように、コロナ禍ではあるのですが、やれるような工夫をしていきたいと思っておりました。

●事務局

御意見ありがとうございました。紫波の方で活躍されている方を講師にお願いしているということで、昨年の紫波の状況も基本的には大体同じだろうと思いますが、中でも糖度が上がっているような場合も出てくるかと思えます。その辺を聞きながら調べながら反映させていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

●会長

よろしく願いいたします。他に御意見等ございましたらお願いいたします。他の委員の方はよろしいでしょうか。

それでは、無いようですので、以上をもちまして、研究会議を終了いたします。

委員の皆様には、今後とも御協力を賜ることになりますが、どうぞよろしく願い申し上げます。どうもありがとうございました。

それでは、事務局にお返しいたします。

●司会

丹羽会長、ありがとうございました。

以上で本日の研究会議を終了いたします。

委員の皆様には、今後とも御協力を賜ることになりますが、その際はよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。